

## 第5学年A組 特別活動指導案

授業者 村上 宙思  
研究協力者 鈴木 翔

### 1 活動題 5 A笑顔集会を開こう

#### 2 子どもと活動題

##### (1) 子どもについて

子どもたちは、団結・笑顔・助け合い・個性豊かにといったキーワードを胸に学校生活を送っている。学級の合い言葉である「試行錯誤」も、失敗と挑戦を積み重ねながら成長したいという思いを込め、学級会で話し合った。議題ポストに学級の問題解決を求める提案が多い。しかし主体的に関与する子どもがいる一方、自分と学級の接点をうまく見いだせず、学級会への参加意欲が高まらない子どももいる。学級会への意欲には個人差があり、話し合いを通して自分たちの理想に近づいていこうという機運は、学級全体の動きとしては今ひとつ高まりに欠ける。

また、これまでは輪番制司会グループで学級会を進めてきたが、その進め方や話し合いのスキルに関しても、大きな個人差が見られる。実際の話合いでは、参会者から活発な意見の出し合いは見られる。しかし反面、意見が多岐に拡散することで、吟味や比較といった議論が弱くなってしまい納得いく合意形成に至らないという課題が残る。発言が決定前の事項に戻ったり、全体のルールから個人的な心がけの部分に話題がスライドしたりと、話し合いの中で論点が逸れることが原因とみられる。子どもたちの振り返りからも、学級全体が納得した合意形成には至らないことで、話し合いに満足感を得られない様子もうかがえる。

ただし中には、かつて自分たちで遊びのルールを試行錯誤しながら決めたことを今も印象深い思い出として語る子もいる。そうした経験から、自分たちの生活をよりよく変えていくために、目的を意識しながら学級会に臨もうと意識を高めている子どもも少なくない。

##### (2) 活動題について

本単元では、**議題の趣旨を正しく捉え、論点に沿った発言を重ねながら意思決定する**、という資質・能力を育てることを目指している。

様々な制限される生活の中、子どもたちは学級に対する団結の高まりやお互いの関わりの深まりに、問題意識を抱いている。本活動題「5 A笑顔集会を開こう」には、自分たちの学級の理想に立ち返り、団結を高め、お互いの関わり合いを深めながら笑顔を生み出す行事を設定したいという意図がある。これは、自分たちの問題意識から提案された議題であり、より自分事として話し合いに臨むことができるものと期待される。

本時では、「5 A笑顔集会でのミニゲームをもっと工夫しよう」という議題で「工夫考案型」の話し合いに取り組む。そこでは、お互いの関わりを深めながら学級に笑顔を増やしたいという趣旨を大前提に、賛成-反対の単純な対立軸のある話し合いではなく、一つのミニゲームのルールを題材にどのように改善を積み重ねていくかを話し合う。話し合いの目的は明確であり、全員が一つのゲームの完成度を高めていくという話し合いに、自分たちの学級の目指す姿を重ね合わせながら活動に取り組むことができるものと考えられる。

##### (3) 指導について

上述の資質・能力を育むことができるよう、**様々な意見を全体で共有した視点で比べ、論点との整合性を考えて話し合う「見方・考え方」**を活動全体を通して働かせる。

事前の指導では、まずは子どもたちの問題意識を明らかにするような意識調査を行い、その結果を全体共有する。団結や関わり合いに対する問題が、一部の子どもの問題ではなく、学級全体の問題であり、話し合いの論点であるという認識を共有させたい。

また司会グループとの事前打ち合わせを数回設定する。話し合いの流れはすでに学級全体で共有している。司会グループからの学級会予告を通して、話し合いの大まかな見通しを全体で確認する。さらに話し合いがより議題の趣旨と整合するよう、事前打ち合わせには毎回の提案者を加える。提案の趣旨や内容の理解が、意見の絞り込みや決定に際する円滑な進行の助けになると考える。またミニゲーム提案者からは、提案内容がより具体的に伝わるよう、実際にデモンストレーションで提示する場を設定する。その提案されたゲームの絞り込みを経て、学級全体が試験的にミニゲームを体験する「お試し」の時間を課外に設ける。その際のミニゲームの感想や評価を持ち寄りながら、学級集会の趣旨と比較、検討し、本時の議題である「ミニゲームのルールの工夫」という話し合いに臨むという流れを設定している。

これまでの課題として、比較や吟味への弱さがあった。事前に提案の趣旨との整合性を自分なりに検討しておくことで、より話し合いの深まりが得られるものと考えられる。「決める」段階に向けては、合意形成の方法類型である「話し合いの技」のどれを活用するかを司会グループが適切に選択し、全体で共有できるよう、状況に応じて助言していく。また、話し合いの流れが、提案の趣旨や話し合いのめあてから逸脱しないよう、学級集会の趣旨や前時で確認したゲームのポイントなどを確認できる掲示や配付資料を準備する。それらは、常にそこ立ち返ることで、自律的に軌道修正をしながら話し合いを進める一助になると考える。

事後の活動では、自分たちの学級という意識を高めていくためにも役割分担を定め、一人ひとりに活躍の場を設けていきたい。自分たちの決定を尊重し、実践する経験を重ねることで、学級の問題の解決や子どもたち一人ひとりの自己肯定感にもつなげていけるものと期待している。

- 3 活動の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉
- (1) 議題の趣旨や話合いのめあてを共通理解し、目的に沿った話合いになるよう、議題の設定理由や条件に立ち返りながら話合いを進めることができる。〈ア-11、イ-8・28、ウ-3〉
  - (2) 議題の趣旨に即し、友達の見解のよさを生かしながら発言することができる。〈イ-20・26〉
  - (3) 議題の趣旨を生かしながら、自分たちの課題に対する解決策をより建設的に考えようとしている。〈イ-4・19〉

4 活動の構想（総時数 3 時間） ※選択・決定を通して自律的に学習を進めるための支援

5 A の学級合い言葉を決めよう  
・自分たちの思いや願いを確かめながら話し合う

	児童の活動 (・予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 〈本校の資質・能力との関連〉
○本単元の学習活動を全体で働かせる主な「見方・考え方」 様々な意見を全体で共有した視点で比べ、論点との整合性を考えて話し合う。 (ア-11・イ-28)	学級生活アンケートに回答し、学級の現状について見直す。 ・もっとまとまりたいな。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が話合いの見通しをもち、議題の趣旨にそって意見を考えることができるよう、アンケートに基づく学級の問題意識を結果として可視化して提示する。</li> <li>・<b>話主体的な話合いになるよう合意形成に向けて用いるべき「話合いの技」を司会グループが事前に選択して、参会者に伝える場を設ける。</b></li> <li>・議題の趣旨がより具体的に伝わるよう、提案者がプレゼンテーションすることで全体で再確認する場を設ける。</li> <li>・議題の趣旨に立ち返って話し合えるよう、第一時で決定した「ミニゲームのポイント」や提案の理由を随時確認できるような掲示物として準備する。</li> <li>・本時での論点が集約されるよう「お試し」の活動では、議題の趣旨に沿ってミニゲームを評価する採点項目を準備しておく。さらにそれを、本時の話合いで活用できるようレーダーチャートやコメントの摘要を話合いの資料として配付する。</li> <li>・話合いが、めあてやポイントから逸れることなく進むよう、議題の趣旨と話合いの流れを考えながら「話合いの技」を選択するよう、司会グループに助言する。</li> <li>・今回の話合いを次回の活動にフィードバックできるよう、振り返りに「話合いの技」の選択が効果的であったかという視点で振り返るよう、助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの生活の中から解決の必要な課題を見出し、全体へ話題提示する。〈イ-4〉</li> <li>・参会者に提案の内容がより具体的に伝わるよう、効果的な伝達方法を選択して提案している。〈イ-8〉</li> <li>・議題の趣旨にそった、自分なりの解決意見を考えている。〈イ-20〉</li> <li>・議題にそった話合いで合意形成に至るよう、見通しをもちながら話題を焦点化している。〈ア-11〉</li> <li>・お互いの意見のよさを尊重しながら課題解決に向けて話し合う。〈イ-19・26〉</li> <li>・決定への経緯や、相互の意見の関係性が見えるよう、記号や傍線などを用いて板書をまとめる。〈ウ-3〉</li> <li>・議題の趣旨や話合いのめあてに立ち返りながら論点を外れることなく話し合う。〈イ-28〉</li> </ul>
	5 A 笑顔集会でのミニゲームを考えよう」の議題の提案を受け、ゲーム提案を募集する。 ・フルーツバスケットは？		
	<b>学級活動（1時間）</b> 「5 A 笑顔集会でのミニゲームを考えよう」の議題で話し合い、お試しへ候補を絞り込む。 ・全員で取り組みます。		
	提案ミニゲームを全体で「お試し」体験し、感想や評価をカードに書く。 ・もう少し、協力する場面があるといいな。		
	「5 A 笑顔集会でのミニゲームをもっと工夫しよう」の議題の提案を受け、採用するゲームに対する、意見をカードに記入する。 ・お店やさん巡りが、やれそうだ。		
	<b>学級活動（1時間本時）</b> 「5 A 笑顔集会でのミニゲームをもっと工夫しよう」の議題で話し合う。 ・より多くのお店を巡ると、関わりが増えるね。		
	5 A 笑顔集会の準備を進める。 ・一人一役で分担しよう。		
<b>学級活動（1時間）</b> 「5 A 笑顔集会」を開く。			

◎本活動で育む主な資質・能力  
議題の趣旨を正しく捉え、論点に沿った発言を重ねながら意思決定する。〈ア-11・イ-28〉

「さよなら 5 A 学級集会」を開こう

5 本時の実際 (2/3)

(1) ねらい

議題の趣旨や話し合いのめあてを意識して、それぞれの意見のよさを取り入れながら、学級集会で行うミニゲームの工夫について話し合うことができる。 (イ-28)

(2) 展開

○省察を通して、自律的に学習を進めるための支援  
**※選択・決定を通して自律的に学習を進めるための支援**

時間	学習活動 (・予想される子どもの姿)	教師の支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>
3分	① 今回の議題の趣旨や前回の話し合いまでに決まったことを確かめる。 ・学級の笑顔が増える集会になるといいな。	・今回の話し合いの目的が明確になるよう、前回の話し合いで決まったことや、「お試し」の活動を経て評価されたミニゲームが今回の議論の対象になっていることを全体で確認する場を設ける。
議題 5 A 笑顔集会のミニゲームをもっと工夫しよう。		
3分	② 大まかな話し合いの流れを確認する。 ・今日はミニゲームでより団結できる工夫を考えよう。 ・みんな笑顔になれるといいな。  話し合いのめあて ・「話し合いのわざ」を使ってクラスが団結できるミニゲームを考えよう。  ミニゲームのポイント 団結できるゲーム 助け合ってできるゲーム 関わり合いが増えるゲーム	・よりよい合意形成の手法の選択につながるよう、司会グループから、どのような「話し合いの技」を用いるかなど、合意形成のプロセスの原案提示を受けて、全体で確認する場を設ける。  ・一人ひとりが主体的に話し合いに取り組むことができるよう、話し合いについての全体のめあてと自分のめあてを比較しながら確認する時間を保障する。  ・論点の集約化を図るため、話し合いに先立つ「お試し」の活動からの評価の結果や改善に関する意見を事前に把握して話し合いの中で活用できるよう、参考資料として準備し配布する。  ○話し合いの流れを随時自分たちで修正することができるよう、話し合いで立ち返るべき「学級集会の目的」や「ミニゲームのポイント」「学級の実態」といった資料を整理し、必要に応じて提示できるように準備しておく。
4分	③ ミニゲームの提案内容を確認する。 ・「お試し」の時は協力や助け合いが少なかったな。	○発表された意見の関連性が明らかになったり、「よさ」の積み重ねが工夫につながることを捉えやすくなったりするよう、短冊や色線などを使い分けて記録するよう助言する。
25分	④ 提案されたミニゲームのルールを、より学級集会の趣旨に相応しいものにするための工夫を話し合う。 ・もっと多くの人に関わるようにするには…。 ・他のゲームの良さを取り入れられないかな。	・出された工夫の提案に対しての考えを固めたり、新たな着想を得られるよう、小グループでの情報交換の場を設定するよう司会グループに助言する。  ・話し合いが円滑に進むよう、状況に応じては、提案者に譲歩の意思があるかを確認するよう司会グループに助言する。
7分	⑤ 笑顔集会でのミニゲームのルールを決定する。 ・「お試し」で気になった全員の関わり合いが深まる工夫が出てよかった。	提案された議題の趣旨や話し合いのめあてに立ち返りながら、論点を外れることなくミニゲームの工夫に向けて話し合っている。  (イ-28) (シート・発言)
3分	⑥ 今回の話し合いについてふり返り、次の活動への見通しをもつ。 ・自分たちの考える団結のイメージを基に、具体的なルールの工夫ができてよかった。	・以降の話し合いへの意欲が高まるよう、建設的な発言や全体の省察が深まるような契機となった発言を価値付ける。